

2026年3月15日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28 : 19~20)

受難節第4主日

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:45

〈神の招き〉

前 奏 ① われを憐れみたまえ、おお主なる神を バッハ
② 我らを救いたまいし、キリスト バッハ

招きの詞 イザヤ書55:6~7

交読詩編 27:7~14

讃美歌 14

〈神の言葉〉

聖 書 詩編95:1~11
(旧約 聖書協会共同訳 916頁)
ヘブライ人への手紙3:7~19
(新約 聖書協会共同訳 394頁)

祈 禱
讃 美 歌 50
説 教 「今日という日に励まし合って」
熊江秀一牧師

祈 禱
黙 想
讃 美 歌 303

〈神への応答〉

使 徒 信 条
献 金
主 の 祈 り
宣 教 報 告②
頌 栄 29

派遣と祝福
後 奏 ① わが心の切なる願い ブラームス
② キリスト、神の小羊 バッハ

宣教報告①

夕 礼 拝 18:00~19:00

〈神の招き〉

前 奏 神よ、我らを憐れみたまえ バッヘルベル
招きの詞 イザヤ書55:6~7
交読詩編 27:7~14

讃美歌 13

〈神の言葉〉

聖 書 サムエル記上15:22~31
(旧約 聖書協会共同訳 436頁)
ルカによる福音書6:43~49
(新約 聖書協会共同訳 113頁)

祈 禱
讃 美 歌 300
説 教 「聞いて、行う」 佐藤潤伝道師

祈 禱
黙 想
讃 美 歌 411

〈神への応答〉

使 徒 信 条
献 金
主 の 祈 り
宣 教 報 告
頌 栄 26

派遣と祝福
後 奏 我ら悩みの極みにある時 バッヘルベル

今週の御言葉

あなたがたのうち誰一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい。私たちは、初めの確信を終わりまでしっかりと保つなら、キリストにあずかる者となるのです。(ヘブライ人への手紙3:13~14)

次週の礼拝(3月22日)

① 9:00、② 10:30

説教「愛の内に成長する」

佐藤潤伝道師

詩編68:1~5、

エフェソの信徒への手紙4:7~16

交読詩編22:25~32

讃美歌54、297、393、26

サテライトチャーチ植竹礼拝・夕礼拝

10:30、夕 18:00

説教「神の業が現れるために」

熊江秀一牧師

詩編46:2~12、

ヨハネによる福音書9:1~7

交読詩編22:25~32

讃美歌11、297、449、29

ワーシップ(賛美礼拝) 14:00~15:00

説教「信仰がなくならないように」熊江秀一牧師、ルカによる福音書22:31~34 [司式]西八條長老
賛美:恵みと平安、わがたましいを歌え、主の手にわが手を重ね、主イエスの十字架の血で、
誰かが祈ってる、主の祈り、土の器、種

■**今週の祈禱課題**■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. レント（受難節）の歩みの為に
4. 新しく選出された長老の為に
5. 関連幼稚園（大宮・植竹・白百合）の修了式の為に
6. 卒業する教会員・家族の為に
7. 埼玉地区（総会）の為に
8. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に
9. 病気の兄姉の為に

***関東教区お祈りカレンダー** 秩父教会 北本教会

◇先週の説教より「わたしたちこそ神の家」へブライ人への手紙3章1～6節、出エジプト記40章17～38節 熊江秀一牧師

前回、大祭司イエスについて語ったこの書の説教者は「イエスのことを考えなさい」と語る。見えないイエスを信仰の目を持って「使徒」「大祭司」と仰ぎ見るのである。

イエスは神が遣わした「使徒」である。それがモーセと対比して語られる。モーセは「神の家全体にわたり忠実であった」。同様にイエスは「ご自分を任命した方（父なる神）に忠実であった」。しかもイエスはモーセに勝る。モーセは神の民の家に属する一員であったが、イエスは神の御子として、神の家を建て忠実に治める方だからである。私たちは神の使徒イエスによって、神の国へと招かれ導かれる。

さらに主イエスは、大祭司としてご自分を犠牲にし、私たちの罪の贖いを成し遂げる。「天の召しにあずかっている」は聖餐にあずかることである。私たちは主の裂かれた肉、流された血、聖餐にあずかる「聖なるきょうだい」である。

そして説教者はイエスを「キリスト」と呼びつつ、「わたしたちこそ神の家」と宣言する。

この「わたしたち」とはまず教会。教会は神が住む家であり、私たちの真の家である。さらに「わたしたち」は教会に連なるキリスト者一人一人でもある。私たちは神の家である。

この言葉に先立ち「もし確信と希望に満ちた誇りを持ち続けるなら」と説教者は語る。これは信仰を奮い立たせる言葉である。この「確信と誇り」は自分に対して持つのではなく、キリストに対して持つ。洗礼と聖餐、御言葉によって、私たちはキリストに対する確信と誇りを持つ。使徒であり大祭司であるイエスを仰ぎ見つつ、キリストに対する確信と誇りを持ち続けるのである。

「わたしたちこそ神の家」との御言葉を心に刻み、「確信と希望に満ちた誇りを持ち続ける」群れとして歩もう。

*礼拝中、起立が無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。